

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名:「星宮さんは隠してる」

テーマ:「彼氏がいそうなのに、彼氏がない美少女」

キャラクター

55

ストーリー

45

テーマ(設定)

45

文章力

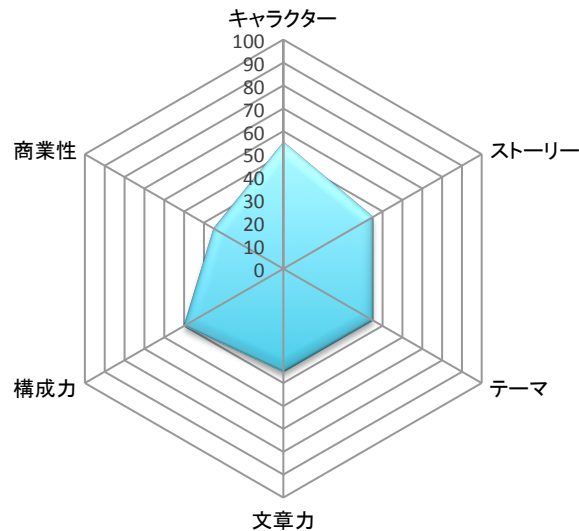
45

構成力

50

商業性

35



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさ過ぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

「私は、ちょっと変な環境に暮らしてて。そのせいか人の考えてることが何となく分かるの。」→変な環境とは何が変なのか、具体的にかつ簡潔に書いた方が良いと思われる。若干都合の良い設定臭がしてしまっている。
 ・主人公が女の子である必要性は必ずしもなかったように感じる(作品に叙述トリックを埋め込みたいという気持ち自体は非常に理解できる)。星宮さんと主人公のちよつと歪んでいるけれど素直な恋物語の方が逆に物語に一貫性が生まれたと考えられるため。もし叙述トリックをどうしても使いたいのであれば、その伏線となる要素を作品全体に渡って均一な濃度で(もしくは前半に多めで)配置すべきであった。後半にその伏線を置いて、直後それを回収してもご都合主義であると思われ、本作では実際そのような形になってしまっている。
 ・星宮さん自身は非常に可愛いと感じた。その裏の顔を暴いてやるという主人公の動機はストーリー気質で読んでいて面白いものがあり、かつ自分も実際気になると思いついて読んでいたため、構成という面でも非常にうまいと感じた。
 ・全体的に文章はもう少し削れる。一文一文で伝えたいことをはっきりと明確にさせた上で、無駄な情報をはぶいていけばよりストーリーラインが明確となって読み易くなると思われる。

合計加点ポイント 0

総得点: 275 / 600

B方式総合得点: 12604 点